

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度	「エチオピア南部に位置するボンケ地区3郡（①クタ郡 ②ケチャ・センガ郡 ③ガルバンザ・ガロ郡）において、安全な水へのアクセスの確保と保健衛生環境の改善」が上位目標である。 本事業期間は3年、本報告は第1年次の事業報告である。本次実施された事業地はクタ郡とケチャ・センガ郡であるため、上記上位目標の達成度は安全な水へのアクセスの確保が①クタ郡 100%、②ケチャ・センガ郡 0%、③ガルバンザ・ガロ郡 0%、保健衛生環境の改善が①クタ郡 43%、②ケチャ・センガ郡 57%、③ガルバンザ・ガロ郡 0%である。																									
(2) 事業内容	本事業は、当団体が平成27年度N連事業において同州で同様の事業を単年度で計画した際、外務省側から次事業について「面展開」のアドバイスを受け、これまで1年1郡で完了していた事業を現地行政の協力を得て、3年間3郡にて事業を開始した。また、これまで①公共トイレ、水供給システムの設置（以下、ハード事業）、②水供給システム運営管理及び保健衛生教育の人材育成・体制構築（以下、ソフト事業）③保健衛生教育啓発（以下、ソフト事業）を同時に行い1年で完了していた。しかし、住民の保健衛生に関する意識の変化、保健衛生の定着をより確かなものにするためには、長期的な啓発が必要であることを踏まえ、本事業では③の啓発事業部分についてのみ事業期間を1郡2年と改め事業計画を策定した。 <table><tr><td></td><td>第1年次</td><td>第2年次</td><td>第3年次</td></tr><tr><td rowspan="2">クタ郡</td><td>体制構築・人事育成・保健衛生教育</td><td>保健衛生教育 体制構築フォロー</td><td></td></tr><tr><td>水供給システム設置 公共トイレ設置 モデルトイレ設置</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">ケチャ・センガ郡</td><td>体制構築・人事育成・保健衛生教育</td><td>保健衛生教育 体制構築フォロー</td><td></td></tr><tr><td>モデルトイレ設置</td><td>水供給システム設置 公共トイレ設置</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">ガルバンザ・ガロ郡</td><td></td><td>体制構築・人事育成・保健衛生教育</td><td>保健衛生教育 体制構築フォロー</td></tr><tr><td></td><td>モデルトイレ設置</td><td>水供給システム設置 公共トイレ設置</td></tr></table> 第1年次（2017年11月～2018年10月）クタ郡及びケチャ・センガ郡 ➤ 裨益者数：合計：6,636人 クタ郡5村（ウマ村、ジマ村、アチャ村、ゲナ村、ドナ村）943世帯・4,716人 ケチャ・センガ郡2村（ゴハ村、サラ村）384世帯・1,920人 ➤ 活動内容 第1年次では、クタ郡においてハード事業とソフト事業を実施する。また、ケチャ・センガ郡においてはソフト事業を先行実施する。第2年次においてクタ郡において、ソフト事業（啓発活動のフォロー）を実施し、事業を完了させる。第2年次のケチャ・センガ郡においてハード事業とソフト事業（啓発活動のフォロー）を実施し、事業を完了させる。 1. クタ郡（ハード事業、及びソフト事業） （ア）水供給システムの運営管理及び保健衛生教育の人材育成・体制構築 （イ）保健衛生教育・啓発活動① （ウ）公共トイレ、水供給システムの設置 2. ケチャ・センガ郡（ソフト事業） （ア）水供給システムの運営管理及び保健衛生教育の人材育成・体制構築 （イ）保健衛生教育・啓発活動① 以上、第1年次計画通り実行した。		第1年次	第2年次	第3年次	クタ郡	体制構築・人事育成・保健衛生教育	保健衛生教育 体制構築フォロー		水供給システム設置 公共トイレ設置 モデルトイレ設置			ケチャ・センガ郡	体制構築・人事育成・保健衛生教育	保健衛生教育 体制構築フォロー		モデルトイレ設置	水供給システム設置 公共トイレ設置		ガルバンザ・ガロ郡		体制構築・人事育成・保健衛生教育	保健衛生教育 体制構築フォロー		モデルトイレ設置	水供給システム設置 公共トイレ設置
	第1年次	第2年次	第3年次																							
クタ郡	体制構築・人事育成・保健衛生教育	保健衛生教育 体制構築フォロー																								
	水供給システム設置 公共トイレ設置 モデルトイレ設置																									
ケチャ・センガ郡	体制構築・人事育成・保健衛生教育	保健衛生教育 体制構築フォロー																								
	モデルトイレ設置	水供給システム設置 公共トイレ設置																								
ガルバンザ・ガロ郡		体制構築・人事育成・保健衛生教育	保健衛生教育 体制構築フォロー																							
		モデルトイレ設置	水供給システム設置 公共トイレ設置																							

(3) 達成された成果

(ア) 運営管理体制の構築

【成果】クタ郡とケチャ・センガ郡において安全な水が長期的に確保されるための体制が構築された。

【指標】水・保健委員会(各郡1)、メンテナンスチーム(クタ2チーム15人、ケチャ・センガ1チーム10人)、コミュニティ保健委員(各郡10人)、給水所班(クタ20班、ケチャ・センガ10班)が発足した。その後各メンバーは研修を受講し各委員会は予定されていた活動を開始し、指標は達成された。来年度も研修を実施し、より活発な活動がなされる予定である。

(イ) 保健衛生教育と啓発活動

【成果】クタ郡及びケチャ・センガ郡において適切な保健衛生知識を得た給水班等が各家庭に啓発活動を行い、コミュニティ保健委員が定期的に家庭訪問を実施することで、対象住民において保健衛生に対する意識が改善され始めた。

【指標】クタ郡対象世帯943世帯のうち43%、ケチャ・センガ郡384世帯のうち57%の住民が保健衛生教育や啓発活動で得たいずれかの知識を家庭で実践し、目標の40%を上回った。第2年次では85%以上を目標としている。

	クタ郡 (943 世帯)		ケチャ・センガ郡 (384 世帯)	
	1 年次の 目標世帯数	実施世帯数 (全世帯のうちの割合)	1 年次の 目標世帯数	実施世帯 (全世帯のうちの割合)
トイレの設置	380 世帯 (全世帯のうちの 40%)	699 世帯 (74%)	154 世帯 (全世帯のうちの 40%)	221 世帯 (58%)
便槽蓋の設置		353 世帯 (37%)		137 世帯 (36%)
食器棚の設置		378 世帯 (40%)		197 世帯 (51%)
乾燥棚の設置		626 世帯 (66%)		351 世帯 (91%)
廃棄物処理		207 世帯 (22%)		281 世帯 (73%)
排水の処理		210 世帯 (22%)		133 世帯 (35%)
平均		43%		57%

(ウ) 公共施設トイレ・水供給システムの設置

【成果①】クタ郡において対象住民(943 世帯 4,716 人)が安全な水を最小限の時間的・身体的負担で入手できるようになった。

【指標 a】水源保護ボックス 3 基、貯水タンク 3 基、パイプ 8.83km、給水所 18 カ所、洗濯場 17 カ所が計画通り設置された。

【指標 b】クタ郡の対象住民(943 世帯 4,716 人)が安全な水にアクセスでき、そのうち 90%以上が毎日約 25ℓ、往復 15 分以下で水汲みが可能になり、指標は達成された。

【成果②】クタ郡にトイレが小学校に 2 棟(男女各 1 棟)、診療所 1 棟建設され、衛生教育により学校全児童(815 名)の 40%、診療所利用者の 40%がトイレを適切に利用する。

【指標】クタ郡において公衆トイレが小学校に 2 棟(男性用 1 棟、女性用 1 棟)、診療所に 1 棟建設された。各棟にはスロープ付トイレも設置してある。学校では生徒と教師で構成される WaSH クラブが発足、トイレの適切な利用を促進した結果、全校児童のおおよそ 40%、及び診療所利用者おおよそ 40%がトイレを適切に利用しており、指標は達成された。

SDGs 達成への貢献

本事業は SDGs 目標 6「全ての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」の達成に大きく寄与した。第 1 年次では、安全な水へのアクセス率 0%だったクタ郡が事業によって 90%以上アクセス可能となった。また、6.2「2030 年までに全ての人々の適切かつ平等な下水施設、衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性および女児、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。」においては、クタ郡の学校に公衆トイレ(男 1 棟、女 1 棟)を建設した。また、b「水と衛生の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する」においては、コミュニティによる水・衛生保健委員会など体制を構築、研修を実施するなど SDGs 達成に大きく寄与している。

(4) 持続発展性

(ア) 住民の事業に対する「オーナーシップ」形成と促進

当団体は、「事業は自分たちのためのものであり、自分たちで守っていく」という「オーナーシップ」が事業の根幹であると考えている。そのため、事業開始前に事業実施に不可欠な資材が運搬できるよう村までの道路建設をクタ郡のコミュニティに依頼した。住民 100 人超が参加し手作業で道路の建設および事業中に壊れた橋の再建設などがなされ、住民の事業へのニーズの高さが理解できた。また、第 1 年次で設置された給水所周囲に動物の侵入を防ぐ柵や鍵の設置を各給水所利用世帯/班に依頼した。設置に時間がかかっていた給水所もあり、そのような班に対して当団体のスタッフが再度柵の重要性について話をした。住民の理解が進むと給水所利用世帯で資材の負担、設置がなされた。事業 2 年次では引き続き、水利用料の徴収に対して住民の事業に対する理解と行動が試される。そのため安全な水への理解、オーナーシップをより高めていく必要がある。

(イ) 住民による運営組織の形成

事業開始直後に住民全体集会にて事業説明を行い、事業を運営する委員会は住民自ら選出、話し合いのもと権限を委員会に与える体制を整えることができた。本事業の要となる「水・保健衛生委員会」には、コミュニティに貢献することが名誉であるという考えから立候補および推薦された者が選出された。主にコミュニティのリーダーが選出され、住民の声を集約し当団体や行政との連絡調整係として機能し始めた。責任と名誉のもとこれらの役割をボランティアで運営管理に参加しており、住民からの信頼も厚い。第 2 年次そして事業終了後も問題なく機能すると考える。また、給水所を頻繁に利用する女性の参加促進がなされ、各委員会にも参加するなどジェンダーに配慮した委員構成となっている。

(ウ) よく計画されたトレーニングによる人材育成

水・保健衛生委員会、および保健衛生委員、給水所班など当団体が実施する研修に参加し、水や排水の扱い方、家庭用トイレや食器棚の設置など衛生に関する知識が向上した。研修を受講した住民が、近隣住民へ啓発することでコミュニティ全体の衛生環境が向上し持続発展へと繋がっている。

(エ) 現地行政との既存の協力体制、連携関係を利用

これまで同地域での事業実績から州レベルの行政および地元行政と十分に連携がなされている。7 月中旬に水資源事務局による「水・保健衛生委員会」に対する研修が実施された。また、郡役場は道路建設や資材運搬等の住民への働きかけを率先したり、各集会や研修への参加への呼びかけを補佐したりと協力を得ている。今後の給水システムの定期メンテナンスとして、水質の検査やカルキ投入作業は水資源事務局との連携が予定されており、クタ郡、ケチャ・センガ郡の第 2 次終了後も現地行政機関との体制が維持され则认为る。